様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：３４５０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ０１１５７

研究課題名（和文）ファッション・デザインとの交差からみる地域文化の現代的消費と新たな地域表象

研究課題名（英文）Cultural Consumption and representation of regional culture in Japan after 2000: Focused on the relationship of local crafts, fashion markets and design

研究代表者
濱田　琢司（HAMADA, Takuji）

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：７０３４６２８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は，2000年前後以降の地域文化をめぐるいくつかの消費状況のうち，ファッション/デザインの場と伝統的地域文化，とくに伝統的手工芸を中心とする工芸文化との関わりを，その文化的な背景・歴史的な流れなども含めて，検討することを目的としたものである。
　本研究において注目したのは，地域の伝統的な工芸品に注目して，その取扱いを拡大させている大手セレクトショップ・ビームスとD & DEPARTMENT PROJECTという二つの企業の取り組みである。本研究では，その状況を概観するとともに，この状況に類する複数の歴史的系譜を確認することで，近年の地域文化消費とその表象の傾向の展開と展望を確認し得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では，地域の手工芸がファッションやデザインにかかる消費の場において，その地域性が強調されながら商品となっている状況を検討した。地方の諸工芸をモノとして個別に取り上げ，その新たなデザインのあり方等を検討した研究は美術史・デザイン史を中心に一定の成果はあるが，このような状況を，人文地理学やその隣接分野において地域表象の問題として検討した事例は多くなく，その点に本研究が学術的に寄与するところがある。

研究成果の概要（英文）：This study examines the consumption of regional culture since 2000 from the perspective of the relationship between traditional local crafts and fashion markets and design. In this study, we focused on the efforts of two companies, the select store BEAMS and D & DEPARTMENT PROJECT. The researcher scrutinized the efforts of these two companies regarding local craftsmanship, and at the same time, investigated past situations similar to this effort.
As a result, this study confirmed that there were several forms of cultural consumption similar to those of recent local cultures from the 1920s to the 1970s. The researcher clarified that the recent situation is closer to that of fashion, and also pointed out its great influence on local crafts as regional culture.

研究分野：人文地理学

キーワード：文化的消費　地域表象　文化地理学　工芸　デザイン　ファッション　民芸

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

2000 年代以降，ファッションやデザインに関する場において，地域の伝統的な手工芸を消費していくような状況がみられるようになった。他方，「新しい文化地理学」が提示されて以降の人文地理学・文化地理学においては，①文化の構築主義的な捉え返しと②空間に意味を付与するものとしての文化のあり方の提示が定着し，そのなかで，地域文化の既存の価値付けを社会的な構築の結果として提示するような研究が蓄積されるようになっていた。

それらは，それまで自明のものと思われてきた地域性や地域の伝統性の再考という点においては大きな成果となっているが，一方で，当該の地域文化が，現代において，どのような文脈で消費されているのかという点に関しては，十分に具体的な考察がなされていたわけではなかった。

このような状況にあって，地域の手工芸をめぐる近年の状況について，その消費の文脈を踏まえて，それに付与される地域性や伝統性を再考することが，工芸を含む地域文化の文化的消費の現在的状況を知ることについて意味をもち，また，そのことが，地域文化の社会的構築をめぐる研究として学術的にも寄与することになることが想定された。

２．研究の目的

本研究は，地域文化の現代的な消費状況を検討するものであるが，それは，たぶんに広義の地域表象（当該地域からの自己表象も含む）の状況を考察するものでもある。こうした地域表象については，上述のように，これまでにも一定の蓄積がある。しかしながら，現在的な状況についての分析の蓄積は薄く，この点が第一の独創性となる。また，後述の具体的対象事例から導かれるファッション／デザインと地域という地理学においては，これまでほとんど注目されてこなかった事柄の影響関係を明示しうる点が第二の独創性となり，さらに，これらと関連し，現在的な諸メディアによる表象と地域文化との関係を探ることも可能となる。

本研究では，そのような内容について，大手セレクトショップのビームスとD & Department Project という企業およびその取り組みを第一に取り上げ①「ファッション／デザイン」としての地域文化消費の状況を解明し，②そうした動きが，どのような地域表象を創り出し，また実際の地域においてどのような影響をもたらしているかを検討する。

さらに，こうした状況にかかる，歴史的な系譜についても合わせて確認をし，現在の状況との関連や相違点等を検討することで，現状を相対的に位置づけつつ，その特色をより明確なものとすることも目的とした。

３．研究の方法

上記の 2 企業を中心に，①「ファッション／デザイン」としての地域文化消費の状況を解明し，②そうした動きが，どのような地域表象を創り出し，また実際の地域においてどのような影響をもたらしているかを検討する。

こうした対象に対して，(a)ビームスおよびD & Department Project が存する「ファッション／デザインの場」，(b)こうした動きを直接・間接に補完していくメディアの場，(c)企業によって表象される対象であり，またそれを受けて自己表象する具体的な地域の場という三つの場を設定し，この三つの場の相互の関係を踏まえながら，そこで形成される現代的な地域文化消費の様相と新たな地域文化のあり方の状況を検討した。

具体的には，(a)については，関連施設・展示の視察調査および担当者への聞き取り調査を中心として実施した。(b)については，それぞれの企業が公開する諸媒体の分析，とくに，D & Department Project については，同社が展開するトラベルガイドのシリーズである『d design travel』を精査した。ほか，一般メディアについては，オンラインのものも含めて関連の内容を確認し，他方，歴史的系譜については，大正中～末期にスタートする農民美術運動や民芸運動という文化運動に注目し，これに関連する資料を中心に検討した。(c)については，2 年目（2019 年度）の後半からの感染症の影響により，予定していた調査を十分に遂行することができなかった。ただし，上記 2 社，とくにビームスに関わりのある生産者について，電話およびZoom を活用しての聞き取り調査を実施することができ，その不足を補った。

４．研究成果

研究成果としては，まずは，本研究で取り上げた状況の歴史的系譜についてである。その第一は，大正末期から展開された民芸運動という文化運動およびその周辺事象にかかることであり，

そのうち，近代期の動きにかかるものとして「玩具と工芸性―「伝統」と「用」，そして，うつわのある玩具から―」(是澤博昭・日高真吾編『子どもたちの文化史　玩具にみる日本の近代』臨川書店，2019 所収)があり，戦後期までの流れを含めて検討したものとして，「創作の工芸と地域性―農民美術の継承をめぐって―」(『民族藝術学会誌　arts/ 』36 号，2020)，「「地元有力者」とローカルな文化振興・文化運動―ヤハギ川観光協会から名古屋民藝協会の本多静雄―」(『関西学院史学』47 号，2020)，「万博・日本民藝館の濱田庄司と個人作家の展示」(『民芸』808 号，2020)および「三宅忠一の思想と実践」(『民芸』809 号，2020) を刊行した。これらの諸研究から，近年の工芸品消費のあり方と同様に，ローカルな対象を都市の消費者や知識人らが新たな文脈において価値付け評価･消費するという動きがあったことが検証され,それによって,近年の地域文化消費および地域表象の状況を相対視して捉えることが可能となった。

第二は，本研究で検討の事例としたビームスおよびD & Department Project に関連した成果である。ビームスについては，「メッセフランクフルト インテリアライフスタイル 2018」での共同報告「BEAMS fennica と民芸―fennica の眼と旅の歩み―」があり，この内容については，2021 年の公開を前提にとりまとめを行っているところである。また，D & Department Project については，同社が刊行する観光ガイド『d design travel』を中心に，その地域表象のあり方を検討した，「ガイドブック 物質と交差する観光ガイドのかたち」(神田孝治・遠藤英樹ほか編『現代のツーリズム･モビリティーズ―動きゆく観光と観光学―(仮)』ナカニシヤ出版所収予定)を，2021 年度中に刊行の予定である。感染症の影響のため，地域の工芸芸生産者らへの影響等の調査を十分に行うことができなかったが，これらによって，ファッションやデザインの場においてみられる，地域文化の消費とその表象をめぐる新たな展開について，一定程度，具体的な形で考察することができた。とくにD & Department Project の『d design travel』は，デザインという視点から，都道府県単位の地域の文化を切り取り紹介していくもので，文化地理学および観光学の対象としても興味深いものであるが，学術的な研究の事例としたのは本研究が最初であると思われ，そうした点からもある程度の学術的貢献を期待できるものと考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 濱田　琢司	４．巻 47
２．論文標題 「地元有力者」とローカルな文化振興・文化運動―ヤハギ川観光協会から名古屋民藝協会の本多静雄―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 関西学院史学	６．最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 濱田　琢司	４．巻 36
２．論文標題 創作の工芸と地域性―農民美術の継承をめぐって―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 民族藝術学会誌　arts/	６．最初と最後の頁 127-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 濱田　琢司	４．巻 808
２．論文標題 万博・日本民藝館の濱田庄司と個人作家の展示	５．発行年 2020年
３．雑誌名 民芸	６．最初と最後の頁 24-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 濱田　琢司	４．巻 809
２．論文標題 三宅忠一の思想と実践	５．発行年 2020年
３．雑誌名 民芸	６．最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 濱田琢司
2．発表標題 モノと地域性―創作玩具・農民美術・新作民芸，それぞれの実践から―
3．学会等名 第35回民族藝術学会大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 濱田琢司・北村恵子・杉浦明志
2．発表標題 BEAMS fennicaと民芸―fennicaの眼と旅の歩み―
3．学会等名 メッセフランクフルト　インテリアライフスタイル2018（招待講演）
4．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

1．著者名 是澤博昭・日髙真吾編，是澤博昭・日髙真吾・稲葉千容・神野由紀・是澤優子・小山みずえ・山田慎也・濱田琢司・亀川泰照・滝口正哉・森下みさ子・内田幸彦著（分担執筆：濱田琢司「玩具と工芸性―「伝統」と「用」、そして、うつわのある玩具から」181-206頁）	4．発行年 2019年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 320
3．書名 子どもたちの文化史　玩具にみる日本の近代	

1．著者名 笹原亮二編，是澤博昭・稲葉千容・内田幸彦・香川雅信・亀川泰照・小山みずえ・是澤優子・神野由紀・滝口正哉・濱田琢司・森下みさ子・山田慎也・寺村裕史・笹原亮二著（分担執筆：濱田琢司「うつわのある玩具」204-205頁）	4．発行年 2019年
2．出版社 国立民族学博物館	5．総ページ数 231
3．書名 子ども／おもちゃの博覧会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関